

金蘭短大 ○松下 知子  
三重短大 橋本貴美子  
鈴木 温子

1. 腕の形と製図によるそでの形との適合性を検討する目的で、前報において腕を側面から写真撮影し、腕の曲がり角度についての計測を行なったのであるが、その結果腕の形や曲がり角度には非常に個人差があることが明らかになった。そこで今回は、さらに被検者数を増して前回同様の方法で写真計測を行ない、腕の形態を分類し、さらに体型との関係を明らかにしたいと考えた。

2. 前回の被検者は三重短大生 83 名であったが、今回さらに両大学より 130 名を追加し、計 213 名を対象に、腕を側面から写真撮影したものについて、肩峰点から下した垂線に対する上腕と前腕の角度を計測した。この計測値にもとづいて出現率 50% を含む範囲を正常な型として分類した。また体型との関係をみるために、肩峰点が上腕部の腕中の中心より前よりに位置するものを前肩体型として検討した。

3. 出現率 50% は上腕角が  $-0.5^{\circ} \sim 3.4^{\circ}$ 、前腕角が  $11^{\circ} \sim 16.9^{\circ}$  の範囲で、これを正常型として 8 つに分類した。体型分類では、前肩体型の者が約 50% あり、上腕角が - の者の大部分が前肩体型であることがわかった。なお、両大学の被検者について比較した結果、一方に上腕角 - の者が非常に多いことがわかったが、この原因についてはさらに検討中である。